

ONE for Animals

ONE for Animals は、犬と猫の運動器疾患に対応すべく整形外科・神経外科・理学療法に特化した施設です。  
「すべての動物に動ける喜びを」をモットーに、運動器疾患に特化することで数多くの症例を治療し、様々な治療法に対する多くの蓄積があります。さらにCT・MRI、関節鏡、PRP（自己多血小板血漿）注入療法、関東で最大規模のリハビリ用プールなど先端機器も充実しています。

Recommend

ONE for Animalsの獣医師が薦める、この4冊



SURGEON BOOKS

整形外科疾患に対する系統的検査STEPS

### 犬の跛行診断

著：林 慶・本阿彌宗紀  
A4判 並製 192頁 動画付き  
定価：17,600円（税込）



プログレス

### 犬の前十字靭帯学

—治療を極めるための40章—

編者：Peter Muir 監訳：泉澤康晴  
B5判 上製 310頁  
定価：27,500円（税込）



211号  
2023年2月号

森先生  
ご執筆

### 獣医学の“標準診療”を学ぶ総合情報誌 CLINIC NOTE

トイ犬種の橈骨尺骨骨折  
～診断・観血的治療と非観血的治療の見極め～

獣医学の“標準診療”を学ぶ総合情報誌  
月刊 A4判 96頁  
定価：3,353円（税込）



46号  
2023年2月号

小林先生  
ご執筆

### 臨床の選択肢を広げるケーススタディ・マガジン VETERINARY BOARD

トイ犬種の橈骨尺骨骨折  
～癒合不全を起こさせないための治療  
選択と治療のポイント～

臨床の選択肢を広げるケーススタディ・マガジン  
月刊 A4判 112頁  
定価：4,400円（税込）



詳しくはEDUWARD Press オンライン「獣医療のミライ」特設ページへ。

# 獣医療のミライ 特別編

インタビューシリーズ 整形外科分野で活躍する女性獣医師に迫る



最前線で奮闘する獣医師に聞く

「女性が働きやすい職場とは」 ONE for Animals

EDUWARD Press オンラインサイト <https://eduard.online>

受注専用 TEL. 0120-80-1906  
受付：平日9:00～17:00

受注専用 FAX. 0120-80-1872  
受付：年中無休・24時間受付



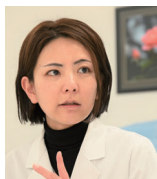
最前線で奮闘する獣医師に聞く  
「女性が働きやすい職場とは」

Interviewee



金井 泉 獣医師

(ONE千葉どうぶつ整形外科センター)  
 日本大学獣医放射線学研究室出身。一次診療施設で8年勤務後、現在に至る。「目の前にある症例に一心不乱に向き合っています。」



日高 由貴 獣医師

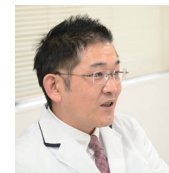
(ONE横浜どうぶつ整形外科センター)  
 東京大学獣医公衆衛生学研究室出身。卒業後1年目の時にアメリカの大学を見学。2年目から東京大学附属動物病院外科系診療科で研修医を3年間経験。その後二次診療施設の整形外科で勤務。一児の母。



佐々木 亜加梨 獣医師

(ONEどうぶつ整形外科センター-東京)  
 東京大学高度医療科学研究室出身。学部生時代は骨再生、大学院では軟骨再生と膝蓋骨脱臼をテーマに研究。整形外科一筋!一児の母。

Moderator



森 淳和  
 Hirokazu Mori  
 ONE for Animals 代表取締役  
 獣医師

Observer



小林 聡  
 Satoshi Kobayashi  
 ONE千葉どうぶつ整形外科センター院長  
 獣医師・獣医学博士

確かな知識と技術を提供する整形外科・神経外科の専門集団 ONE for Animals。  
 今回は、第一線で整形外科の研鑽を日々続ける3人の女性獣医師に伺いました。

—森：整形外科医を志した理由とその魅力についてお話をください。

金井：私が一次診療施設で働いていた頃は実は整形外科のおもしろさにはまったく気づいていませんでした! (笑) 学会で森先生と小林先生の膝蓋骨脱臼のセミナーを聴講し、整形外科の理論的な側面を知って興味を持ち、勉強したいと思ったことがきっかけです。もう5年ほどONEに勤務していますが、整形外科の魅力は学んだ分だけ技術が向上することです。理学療法分野に触れ、さらに強く感じます。

日高：私は元から整形外科に興味がありました。東大の研修医時代には外科系診療科で、整形外科の治療をする際にも内科治療と同様に論理があることが分かり、さらに興味深く感じて学びたい気持ちがとでも強くなりました。また、整形外科は、治療後にすごく元気になる子が多いので、「治ったら、たくさん遊んでね!」と言えることも大きな魅力ですね。

—森：女性獣医師だから……という圧迫感を感じたりしませんか?

金井：ありません。逆に「女性でかっこいいですね」と言われることのほうが多いです。まわりの人からも応援されることが多く、整形外科を選んで良かったと思っています。

日高：私はアメリカで大学を見学してきたこともあって、まったく感じたことがないです。アメリカには女性獣医師も多く、整形外科で活躍する先生もいました。男女差を感じるものがなく学生や研修医も同様に働いています。もちろん女性は産休後でもスムーズに復帰していました。それを見てきたこともあり、日本に戻ってから特に違和感を感じることはありませんでした。

佐々木：最近では整形外科を得意とする女性獣医師としてよく話題に取り上げてもらっていますが、それまでは男女の違いをあまり感じていませんでした。学会では、確かに男性が多いですけど気になったことはありません。

森：社会も変わってきていますよね。特に従来の外科系研究室では男性が多くて、「背中を見て学ぶ」という古来の教育法も多かった。けれど今整形外科で頑張っている若手の先生や学生を見ても男女の数の差は感じないし、むしろ女性の方が思考の組み立てが上手と感じることも多く、教え方、学び方も変わってきていると感じます。

若手が最前線に立てるのは  
 成長を促すプログラムがカギ

小林：金井先生は当院で手術を始めて2カ月で30件程度経験されましたね。

金井：はい。以前の勤務先では整形外科手術は1カ月に1~2件程度でしたが、ONEでは毎日のように手術があって、他院ではここまでの経験はできなかったと思います。自分が成長していることを実感しています。

小林：そうですね、あとはただ経験年数が長いだけでは手術は任せられません。論文を読んで議論し、手術写真を見て説明できるようになって初めて飼い主様の前に出ていく。金井先生は一般診療で培ってきたことが多くて、吸収がとても早かったね。

日高：助手に毎回入れるところは大きいと思います。学生時代は見学者が多く、速く見学もままならないこともありましたが、研修医時代も自分の持つ症例ならば助手に入れませんが、そうでないと見られませんか。あとは手術の到達点が同

じでも経験豊かな先生方からいろいろなアプローチ(手法)を見せてもらえるので、ヒントもらえることも多く、自信を持って手術ができるようになりました。その自信が飼い主様へも伝わっていると思うので、飼い主様も安心して任せてくれるのだと思います。

—森：現状の獣医療における問題点はどこなところでしょうか?  
 佐々木：意欲や能力があっても、働き方が合わないという理由で臨床獣医師を目指せない場合があり、もったいないと感じています。いろいろな人が働ける環境になるよう、獣医療業界全体で環境づくりに取り組めると、獣医療がより豊かに発展していくのではと思います。

—森：ONE横浜では17時終了ですが、どう感じますか?

佐々木：手術が予約制のためしっかりと終わることができて、メリハリがつけられていると感じます。一方、娘の体調不良等で突発的なお休みをいただくので申し訳なさがありますが、私のいいところを挙げて応援してくださいるので、モチベーションを保ちながら働いています。

小林：女性が働きやすい環境を作るには何が必要でしょうか。

森：術後ケアなどは研修医に任せて、スキルのある獣医師が9~17時の間に手術をできるように状態にしたいです。短時間しか働けない条件でも、スキルがあれば効率的に働けるでしょう。診断当日に手術が必要な症例は多くないので、調整しやすいのが整形外科の強みです。

日高：手術助手に毎回入れるところは大きいですね。経験できる症例件数も多く、短い時間で成長できるのも効率的に感じます。

恵まれた環境で経験を積み  
 10年後の飛躍が見える

—森：今後どうしていきたいかというビジョンをお聞かせください。

金井：30代半ばで専門分野を目指し始めて不安も少しありましたが、今は進むべき道が見えて満足しています。一次診療の現場で多くを経験してきたことが今、すごく生かされているのだと思います。これからも一歩ずつ成長していきたいです。

小林：一般臨床を経験した後、普通は開業を検討するところですが、金井先生の成長の仕方は、ある意味サクセスストーリーだと思いますね。一般臨床にも外科にも通じた女性獣医師が増えることになる。

日高：金井先生がうらやましいです。一般診療の経験はすごく大きいですし。私も今は家庭の事で時間が限られていますが今後は大学院への進学を検討中です。5年後、10年後には手術をしながら納得できる研究発表ができるようになります。

佐々木：私は研究から入っているので、納得できる診断ができるようになるのが短期的な目標です。将来的には臨床も研究も、そして整形外科も好きなので、ONEでの症例数を生かした臨床研究を、獣医師の先生方を巻き込みながら進めたいですね。整形外科部門の臨床研究で活躍していきたいと考えています。

